

Bangladesh 人民共和国



Vol.1 Bangladesh と日本の文化

今回は、Bangladesh 人民共和国ご出身で、現在は日本に生まれているリューザ・スルタナ・モニさんのお話をご紹介します。

モニさんが生まれた Bangladesh について教えてください。

私が生まれ育ったのは、Bangladesh 人民共和国の中にあるラングプールというところですよ。
Bangladesh は、インドの隣に位置し、首都はダッカという都市です。
気候は、1年中暑いのですが、夏は37℃くらいになり、冬は15℃くらいです。(日本の冬より暖かいですよ)
広さは日本の北海道とほぼ同じくらいなのですが、人口は日本より多く、とても人口密度が高いです。
それと、Bangladesh では、年に3回お米が収穫できます。



今は、夫と私、それと、生まれたばかりの娘と一緒に日本で暮らしていますが、母国では、父、母、弟、妹3人と、親戚、お手伝いさんを入れて26人で暮らしていました。



次に、日本での生活について教えてください。暮らしてみて、どんなところが大変ですか？

母国では、お手伝いさんが全て家事をやってくれていたのですが、日本に来てからは、それらを全て自分でやらなくてはいけなくて、とても大変でした。

また、言葉の壁はやはり大きく、日本人の『英語』の発音が聞き取れず苦勞をしました。

それと、物価が違うので、生活の変化は口もとても戸惑いましたね。

暮らしてみて、どんなところが『いいな』と思いますか？



日本に来た当初、電車の時間がきちんと決まっていて、しかもそれが時刻どおりに運行しているの口は驚いたのですが、電車に限らず、色々なことにおいてルールがあり、それがきちんと守られて暮らしているの口、とても生活がし易いと思いました。

役所や銀行などのシステムも大変しっかりしているので、スムーズなやり取りが当たり前になりますね。

また、道路や公園などもきちんと整備されていて、ゴミも落ちていなくてきれいだと思います。



『これは違うな』と思うこと、驚いたこと、戸惑ったことを教えてください。

両親の前で、お酒を飲んだりタバコを吸ったりしているのを見た時は大変驚きました。

母国では、そういう行為は失礼にあたりますので、そんなことをしたら大変です。

あと、温泉や銭湯などで他人と一緒に風呂に入っているということですね。

母国には温泉がありませんが、人前で裸になることは有り得ませんし、とても恥ずかしいです。



また、日本では、友達の家へ遊びに行く前に電話をしたりするようですが、Bangladesh ではそのようなことは特にせず、自由に遊びに行っていました。それは大人になった今でも変わらず、とても気軽な関係ですよ。

日本の食事で好きな物、苦手な物がありますか？

日本に来て始めて生魚(刺身)を食べたのですが、とても美味しくて今では大好きな食べ物の1つです。その他にも、天ぷらや焼肉が好きです。

ただ、納豆は臭いがとてもキツイので、苦手ですね。

日本で暮らしてみて気付いた自分の国の良い所 & 悪い所はありますか？

良い所は、家族の関係がとても良く、お互いをとても大事にするところです。

また、悪い所はとにかく交通の便が悪く、不便なところですね。

日本の文化や町並みについてどう思いますか？

日本には四季があるので季節ごとの変化が楽しめます。花が咲き、木々が紅葉をする風景は、とても美しいですね。

どこへ行っても山や川、森などの自然がありますし、水もきれいで美味しいと思いました。(もちろん、Bangladesh にも素敵な風景はありますよ)



また、Bangladesh では、家が土で出来たもの(夏は涼しい)や、稲の茎や竹で出来た家、コンクリートで出来た家がほとんどなので、日本の木造の家を見た時はとても大きくて美しいと思いました。



日本では、大人になると家族でお酒を飲む機会がありますが、Bangladesh では失礼な行為になるので、国によって様々な『マナー』があることを改めて実感させられるお話でした。

今回は、Bangladesh の『お誕生日と家族』についてお届けします。お楽しみに☆

バングラデシュ人民共和国



Vol.2 バースデーケーキはカタログで♪

今回も、バングラデシュについてお届けします。

『お誕生日のお祝い』について教えてください。
ケーキの定番はありますか？

誕生日には、日本の様にケーキ屋さんに行ってケーキを買うのではなく、ケーキ屋さんで作っているカタログの中から好きなデザインを選び、それを注文します。

ですから、バングラデシュには、日本に比べてケーキの種類が沢山あります。

バラのデコレーションケーキ、魚の形のデコレーションケーキ等、本当に様々な形のケーキがあって、とても楽しいですよ。



お祝いをする場所は？

お祝いは基本的に自宅が多いのですが、中にはホテルなどを予約して行く人も居ます。



プレゼントの定番はありますか？

子供にはおもちゃ、友人には花や本、親戚にはゴールドのネックレスやリング等ですね。

また、プレゼントにはメッセージカードを添えて贈ることが多いです。

メインディッシュになっているメニューはありますか？

特別な米料理(肉とスパイスと米を混ぜた料理)や、ピリヤニー(インド風焼き飯)、レザラ(煮込み料理)、テハリ(味付けご飯)、チキンフライ、サラダなどですね。



仕事とお祝いの優先度はどちらですか？

基本的には仕事が優先ですが、パーティーは夜行うようにして、なるべく皆がそろって参加できるようにします。

家族で祝うのはいくつまで？

12歳くらいまでは家族で行うと思うのですが、あとはその家庭によって様々だと思います。

離れた所に暮らす家族は？

私が日本に来てからも、12時1分には両親からお祝いの電話が来ますので、離れていても大切に思っていますし、今でも家族の誕生日パーティーは行っています。

その時は、ケーキやお花を用意して、サプライズパーティーを開き、日本に来てからも、夫が誕生日にお花やプレゼントを贈ってくれます。



『家族』について教えてください。

お母さんの存在は？お父さんの存在は？

私にとっての両親は、とても優しくいつも見守ってくれる大切な存在です。

母親と仕事の関係(子供ができたなら会社をやめる？)

ほとんどの家庭では、母親は家に居ます。

働いている場合は、子供が出来ると産休が与えられますが、その人の家庭環境などによって、続けたり辞めたりします。



子育ては夫婦ですか？

母国では、基本的には母親や、親戚、お手伝いさんが行い、父親がそれに参加していると、周りからあまり良く思われません。

でも今は、日本で暮らしているので、夫と一緒に子育てをしています。子供は2人の間に授かった宝ですので、一緒に子育てをすることは、子供にとってもとても良い事だと思います。

男らしい、女らしいとはどんなことを言うのか？

優しくて、家庭的なのは女性で、男性は仕事をして稼ぐことが役割です。家事などを男性が行うことは少なく、日本の言葉で言うと『亭主関白』ですね。

家族との関係について

日本では、家族に何かをしてもらった時に『ありがとう』と言葉に出して感謝の気持ちを伝えますが、私の国では、そう思うことが当たり前で、特に言葉に出して言うことはありません。

ですから、日本のそういう文化はとても良いな、と思いました。

バラや魚の形のデコレーションケーキを囲んでのお誕生日パーティーは、とても楽しそうですね。

最終回の次回は『結婚式とお祭り』についてお届けします。お楽しみに★

バングラデシュ人民共和国



Vol.3 バングラデシュの結婚式とお祭り

最終回の今回は、バングラデシュの『結婚式』と『お祭り』についてお届けします。

結婚式の場所や形態はどのようなものですか？

結婚式は、結婚式場や自宅、ちょっとした広場などで行います。

また、日本のように招待状を出す習慣はなく、自由に出入りができるので、沢山の人が一緒にお祝いしてくれますよ。



結婚式の人数や、雰囲気・メニューなどについて教えてください。

これは、その式によって様々ですが、100人から、多い時には1000人ほど集まる場合もあります。

結婚式の儀式や準備は、2週間～1ヶ月前から行います。

母国では、『婚約の日』や『ウコンの日』(ウコン:ターメリックのこと。香辛料などに使われるショウガ科の植物で実の色が黄色い)というのがあり、この日は互いの家族が集まり、黄色い民族衣装を着て、お互いの実家でお祝いを行います。



お祝いは、家に花を飾り、伝統的なお菓子『ミスティー』(コンデンスミルクと砂糖と、牛乳を煮て上に出来た膜を絞ったものを混ぜた、メイプルシロップ漬けのパンのようなお菓子)を持ち寄って食べます。そして、結婚の儀は僧侶が行います。

女性はサリー、男性はスーツとシェロワンという民族衣装を着て、ゴールドのアクセサリーを身につけます。



花嫁の家族が、新郎の家族に挨拶を行うのですが、その別れの挨拶がとても感動的で、涙ながらに行います。

あとは基本的に自由な雰囲気、音楽を聞いたり、食事をしたり、おしゃべりをして楽しく過ごします。

ちなみに、バングラデッシュでは、日本のような結婚指輪をする文化がありません。

その代わりに、女性は結婚をすると鼻にピアスを入れます。(男性は何もありません)

最後に、バングラデッシュで行われている『お祭り』について教えてください。

年に2回行われる、イスラム教のお祭り『イード』があります。

『イード』は2種類あり、1つ目は『ラマダン』(1ヶ月の断食)で、貧しい人々の気持ちを知った後のお祝いです。この間(3日間)は、学校も会社もお店も全てお休みとなり、家族や親戚が集まって食事会を行ったり、伝統的なお菓子『シューマイ』(とても薄い米の麺を、ミルクと砂糖とスパイスを使用して作ったもの)を作ったりします。

もう1つのイードでは、牛や羊を殺して、親戚や貧しい人々に配ります。イードの他には、お正月に大きなお祭りがあります。



その時は、女性は白と赤のサリーを、男性はバンザビヤやバイザマという民族衣装を着て、伝統的な料理を食べます。

【市場の様子】



店頭に並ぶ色とりどりのサリー。

バングラデシュの女性は、このサリーをTPOIに応じて着こなしているんですね。

今回でバングラデシュは終わりです。

次回は、『アメリカ』のお話をご紹介しますので楽しみに★